

古事記完成一三〇〇年記念プレ・イヤーフォーラム

「今、記紀万葉が語る」として



古事記写本文：阪本龍門文庫善本電子画像集より 写真：平城宮跡第一次大極殿正殿



写真：飛鳥浄御原宮跡(伝飛鳥板蓋宮跡)

【開催日】平成23年**3月13日**【日】
12時30分～16時30分
(開場12時00分)

【会場】**奈良県橿原文化会館**
奈良県橿原市北八木町3丁目65-5

【主催】奈良県

【後援】毎日新聞社

「古事記」「日本書紀」が編纂(へんさん)され、多くの万葉歌が詠われた奈良県。

奈良県では、これら記紀・万葉集に代表される本県特有の歴史素材の多角的な紹介をつうじて奈良の魅力を再発見し、県内外の方々に発信していく「記紀万葉プロジェクト」を推進しています。知らずに見ればありふれた野原や田畑にすぎない風景でも、その場所にまつわる歴史や伝承を知ったうえで見れば、そこに全く違う古代の風景が立ち現れてくるはずであり、その体験をつうじて歴史に対する興味を深め、感動を味わうことができるのではないのでしょうか。

私たちは、「古事記」「日本書紀」「万葉集」などの文献が、この感動を味わうための大きな手がかりになると考え、本日は、奈良県をこよなく愛する研究者の皆さまと、古事記をつうじてご縁の深い島根県からも講師をお招きし、「記紀・万葉プロジェクト」の一環として、「今、記紀万葉が語ること」をテーマにフォーラムを開催いたします。

このフォーラムをつうじて皆さまに「古事記」「日本書紀」「万葉集」の魅力を深く味わっていただき、奈良や日本の古代に思いを馳せ、さまざまな感動に出会っていただければ幸いです。

プログラム

12:00 開場

12:30 開会 主催者挨拶 荒井 正吾 奈良県知事
「記紀・万葉プロジェクト」について 廣野 隆信 (記紀・万葉プロジェクト検討委員会座長)

第1部 基調講演

「記紀万葉と日本人の心」 中西 進氏 (奈良県立万葉文化館館長)
「古事記の国際性」 千田 稔氏 (奈良県立図書館館長)

休憩 5分

14:00 第1部 レクチャー
「出雲神話の世界」 藤岡 大拙氏 (荒神谷博物館館長)

14:20 第1部 ステージ 石見神楽「大蛇(おろち)」

石見神楽は、石見地方(島根県西部地域)に伝わる里神楽です。演目は30数演目に及び、その多くが『日本書紀』を題材としています。現在では、各種イベントや婚礼のアトラクションなどでも欠かせない郷土の伝統芸能になっています。

中でも、「大蛇(おろち)」は、石見神楽の中の華と言われ、須佐之男命(すさのおのみこと)の八岐の大蛇(やまたのおろち)退治を題材とした演目で、八頭の大蛇がのたうちまわる須佐之男命との格闘シーンは、見る人を必ず感動させることでしょう。

今回、島根県浜田市からお越しいただいた方々に公演していただきます。スケールが大きく、ダイナミックな記紀の世界をお楽しみください。



休憩 15分

15:00 第2部 パネルディスカッション 「記紀・万葉集と奈良」

●司会

氷置 恒夫氏
(毎日新聞東京本社編集局次長)

●パネリスト

中西 進氏(奈良県立万葉文化館館長)
千田 稔氏(奈良県立図書館館長)
菅谷 文則氏(奈良県立橿原考古学研究所所長)
藤岡 大拙氏(荒神谷博物館館長)

16:30 終了(予定)

基調講演

「記紀万葉と日本人の心」

- 記紀万葉は何を発信しているのか。
- 記紀万葉はどのように日本人と関わってきたか。
- 記紀万葉から、どんな未来が開けるのか。



中西 進(なかにし しずむ)氏
(奈良県立万葉文化館館長)

東京都出身。東京大学文学部国文学科卒業。
講談社文庫「万葉集」(全4冊と万葉集辞典1冊)を
編集。2001年より同文化館館長に就任。

「古事記の国際性」

- 国づくり神話とアジアの神話
- アマテラスの源流
- 降臨神話と海洋神話との統合



千田 稔(せんだ みのもる)氏
(奈良県立図書館情報館館長)

奈良県生まれ。京都大学文学部史学科卒業。
国際日本文化研究センター名誉教授。とくに
古代日本の歴史地理学の研究を進めている。
『平城京遷都一女帝・皇后と「ヤマトの時代」』ほか
著書多数。2005年より現職。

レクチャー

「出雲神話の世界」

- 神話は必ずしも虚構にあらず。出雲神話も真実を語る部分がある。
- 出雲神話は出雲を中心に、伯耆、因幡、信濃、古志、大和、紀伊、日向、新羅などに及んでいる。
- 出雲大社は巨大化し、建て続けられた。理由を解明することで、古代出雲の実像が明らかになる。



藤岡 大拙(ふじおか だいせつ)氏
(荒神谷博物館館長)

島根県斐川町生まれ。京都大学文学部国史学専攻、
同大学院修士課程修了。
NPO 法人出雲学研究所理事長。
島根県とくに出雲に関する著書多数。

パネルディスカッション

「記紀・万葉集と奈良」

- 歴史文学研究から見た記紀・万葉集の魅力
- 記紀・万葉集から考える奈良が果たす役割

● 司会



氷置 恒夫氏
(ひおき つねお)

(毎日新聞東京本社編集局次長)
京都府亀岡市生まれ、同志社大学卒。
毎日新聞社で奈良県橿原駐在、松江支局、
社会部、奈良支局長、地方部長などを経て
現在に至る。

● パネリスト



中西 進氏



菅谷 文則氏
(すがや ふみのり)

(奈良県立橿原考古学研究所所長)
奈良県生まれ。
飛鳥浄御原宮跡や東大寺、
法隆寺などの調査を担当した。
日本学術会議連携会員、
滋賀県立大学名誉教授。



千田 稔氏



藤岡 大拙氏